永井先生からのメッセージ No.9

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2023年5月12日（金）　野毛山幼稚園

元小学校教諭　永井　裕

【本気でほめる】

▶小学校６年間で指導すべき道徳教育(心の教育)の中に、次のような内容があります。

【1.2年】自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
【3.4年】自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
【5.6年】より高い目標を立てて、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

▶なんとなく、重苦しさを感じる文面ですが、文部科学省はこうも言っています。
「今、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、『キャリア教育』で～す!!」

もう‥ムリ‥

▶ということで、気分を変えて、『カーネル・サンダース』、７歳の時のお話。
彼は毎日、働きに出ている母親に代わり、幼い弟と妹の世話をしていた。
そんなある日‥。彼は生まれて初めて、自分一人でライ麦パンを焼いた。
▶「お兄ちゃん、おいしい。」３人は、パンを携え、数時間歩き、母親のいる工場へ。そして、その味に驚いた母親は、仕事仲間にもパンをふるまった。
『カーネル・サンダース』は、母親に大絶賛されたこの日のことを、生涯忘れなかったという。

▶大人が本気で自分をほめてくれた。この『喜びの記憶』は、生涯の宝となり得るのでしょう。現に、私たちが「やる気」や「根気」を出せるのは、『喜びの記憶』がエネルギー源となっているからだと思います。まして、子どもたち。日々の成長に必要なのは、道徳やキャリア教育の難しい文言ではなく、「本気でほめる」、ただそれだけのように思えてきます。

▶(私ごとで恐縮ですが) 30年ほど前、本町小学校に勤務していた頃のこと。
1995年度。担任した２年生のクラスにＮ君という男の子がいました。彼は私が紹介する様々なことに興味をもち、例えば、剣玉をやって見せれば、即行動。あっという間にコツをつかみ、気が付けば、私を上回る腕前に。
Ｎ君は、私を心から驚かせ、本気でほめさせてくれた、そんな子どもでした。

大人が子どもをほめる。それが本気であれば、「ほめた方」にも、「ほめられた方」にも、『喜びの記憶』が残っていく。そんな素敵な出来事が一つでも多くおとずれますように。

No.8『4月号』【Ｈ氏はだれ】◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

▶Ｈ氏とは、平野啓一郎さん。小説、映画のタイトルは、『マチネの終わりに』。
４月号の紙面は、『私とは何か』(講談社現代新書)を参考にして書かせていただきました。

No.9『5月号』【Ｎ君はだれ】◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

▶Ｎ君とは、奈良悠樹くん。 もう36歳になるのかな？